



“地域に開かれた施設を目指して”

瑞光の里施設長  
りんりん理事

市川 幸夫氏

瑞光の里の施設長に就任する前は、日本福祉大学で事務の仕事に携わっておられました。半田キャンパスに来て間もなく、ある生涯学習講座で市川氏は村上真喜子さん(りんりん前理事長)と出会います。地域に目を向け利用者さんの声に応えようと活動する村上さんに、市川氏は強い共感を持ったそうです。りんりんが平成11年にNPO法人を取得する際には、経営コンサルタントでもある市川氏から、大変お力添えをいただきました。以後今日まで、りんりんの経営・経理面において後方支援の役割を担ってくださっています。

平成18年に「特別養護老人ホーム瑞光の里」の施設長を引き受けた際、アンケートなどを使って問題点を洗い出し、改革に乗り出します。「私はこの施設を変えるためにきました」と宣言。地域に開かれた施設を目指しました。また、りんりんにお願いして“昭和喫茶”もオープン、いっしょに施設作りに取り組んできました。

今後の瑞光の里の目標として、高齢になった身体障がい者・精神障がい者・中途障がい者といった方たちも、もっと受け入れられる施設にしていきたいと皆さんで話し合っているそうです。

また市川氏は、重度の介護を通してつちかわれた瑞光の里のノウハウを地域で役立てたいと考えておられます。

瑞光の里に窓口を設け、地域で発生した困難な介護事例に対応するための相談機関として、より地域に開かれた瑞光の里を目指しています。

私たちにとって身近で、頼りがいのある瑞光の里になっていくことでしょう。りんりんについても岩滑という地にあることを忘れないようにと言われました。(S記)

発行/特定非営利活動法人 りんりん  
半田市岩滑高山町5丁目4番地  
TEL(0569)21-3646 FAX(0569)32-6623  
http://rinrin.or.jp E-mail npo@rinrin.or.jp

ありがとうございます

皆さまのあたたかいご支援が  
りんりんを支えています。

介護保険ひとくちメモ

介護保険の申請から認定まで(2)ー  
～介護度が決まるには～

1. 一次判定(コンピュータ)
  - ・訪問調査…心身の状況を調べるために本人と家族等から聞き取りなどをする
  - ・主治医の意見書
2. 二次判定(介護認定審査会)
  - により介護度が決定します。



総会のお知らせ

日時 5月26日(日)10時～12時  
場所 りんりん1階  
※ 会員の皆様、ご参加ください。

りんりんのできごと

～ヘルパー研修会～

- 1月 ターミナルケア・連携のとり方 ..... 51名
- 2月 精神障がい者の理解と支援 ..... 51名
- 3月 25年度ヘルパー登録・契約 ..... 40名

多世代交流事業

	1月	2月	3月
絵手紙	13名	16名	16名
さをり織り	20名	30名	32名
生き生きサロン	145名	138名	170名
小物づくり	10名	11名	12名

(延べ利用人数)

会員数

協力会員	利用会員	賛助会員	合計
111名	54名	52名	217名

(H25/3月末現在)



『人持ち』

～地域とつながる・安心をつくる～

東日本大震災から2年が経った今、「1年前よりも精神的なつらさを感じる」と答えた人が多いという被災地の調査結果には胸が痛みます。「家族と一緒に暮らしたい」「そつと横で話を聞いてくれる人がほしい」「気心の知れた人と笑ってお茶が飲みたい」「ちょっとした困りごとを助けてほしい」たとえ安全な建物が建っても以前のように暮らしてはいけない・・・と。「安心して暮らすには・・・」は、私たちのこれからのテーマでもあります。



岩滑自治区では「岩滑お助け隊」が発足、活動が始まっています。「電球切れ等、暮らしの中のちょっとした困りごとは地元の自分たちがお助けします」という男性中心の自主的な組織で、自分たちが安心して暮らせる町は、自分たちが作っていかうと実践されています。

3年前のりんりん会報で「安心をつくる」をテーマにしたことがありました。人と人がつながるご縁を大事にして、りんりんは『人持ち』になって『地域とつながる・安心をつくる』を実現させていきます。りんりん働いていた女性を中心に、経験を生かして話し相手や子供たちを見守る役割など、グループで活躍できる場を作っていきます。これらの方々はりんりんの「人持ち」の大切な財産です。

代表 下村 裕子

岩滑区・行政・NPOとの協働で

# 防災から安住の まちづくり

現在、岩滑区・社会福祉協議会と協働でおこなっている「防災から安住のまちづくり」の中間シンポジウムが2月9日に雁宿ホールにておこなわれました。

最初に桜美林大学大学院の白澤正和教授による「地域包括ケアの推進と防災活動」という基調講演があり、今後の高齢者社会にむけて、日常生活圏域(歩いて30分ぐらい)で適切に見守りを提供できるような地域での体制が重要とのことでした。40分ほどの講演で、もっと話が聞きたかったとの意見もありました。

その後「単身高齢者ヒアリング調査」「全世帯アンケート調査」を愛知教育大学生と名古屋大学大学院生が、地域の課題・ニーズとして発表しました。その内容をふまえ日本福祉大学学長補佐 原田正樹氏がコーディネーターとして平成23年10月から取り組んできたことをパネリストの方々がディスカッションしました。来場者は220人。岩滑区民はもとより他市町村、県外からも参加があり講演後のアンケートでは「今後の自分たちの取り組みの参考にしたい」「地域・NPO・社協とのチームプレイが素晴らしい」「緊急時の対応まで考えたほうがよいのでは」などの意見が寄せられました。

今後はLED電球を利用した近代的な見守りを実践しつつ、りんりんとして安住のまちづくりができるよう協力していきたいと思っています。



## “喫茶りんりん”

### 第二瑞光の里

「喫茶りんりんです。おさそいに来ました。」

特別養護老人ホーム第二瑞光の里では、それぞれのお部屋まで喫茶りんりんのスタッフがお迎えにいきます。担当の職員にその日の利用者さんの様子を聞いた後、2階喫茶ルームへ。

「今日は寒いので、おしるこにしましょうか?」「そうだね。おしるこもらうかな。」会話のままならない利用者さんも多いのですが、身ぶり手ぶりでコミュニケーションをとり、12種類の中から飲み物を選んでもらい、楽しんでいただいています。

2ヶ月に1回(第3木曜日)の営業なので、まだまだなじみは薄いですが、喫茶店の雰囲気を楽しみに待っていてくださる方も少しずつ増えています。

心がほぐれる憩いの場になっていけばと思います。



### イオン幸せの黄色いレシート キャンペーンの報告

会員・地域の皆様の応援もあって、平成24年度の“イオン幸せの黄色いレシート”合計が1,443,891円になりました。助成金額はその金額の1%になる14,400円です。りんりん茶屋の備品等の購入に使わせていただきます。皆様ご協力ありがとうございました。

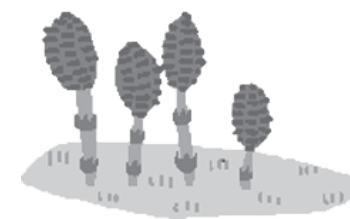
### 25年度年会費納付のお願い

会員の皆様とご縁をいただきまして、ご支援くださいますことに心からお礼を申し上げます。地域ふれあい事業をさらに充実し、安心できる地域づくりに貢献していきたいと考えております。

年会費 3,000円

## ～岩滑あちらこちら～

平成2年、矢勝川の土手に地域住民総出で彼岸花が植えられました。そして仲間とともにその後の手入れを続けてきたのが、“矢勝川の環境を守る会”の皆さんです。



長年にわたるお世話を「来たい人が来てやっているだけ…」とさりげなく言われますが、彼岸花の球根を痛める萱の根をとりどりのぞく厄介な作業を含め、常時10人近くがそれぞれの場所で作業をしています。彼岸花のあとに矢勝川のそばの休耕田に、菜の花・ポピー・ポーチュラカ・コスモスと次々に咲くとりどりの花の手入れも欠かせません。

休憩の時にはお茶を持ってくださる人もいて、なんとなく集まって取り留めのない話をしたり、通りかかった保育園児たちと「こんにちは」と手を振りあったり・・・暖かな時が流れます。

“それぞれの出来る事を出来る時間だけ”—それが長続きの秘訣なのでしょう。この美しい彼岸花がいつまでも咲いてくれますように。

## 南吉を 読んで みよう



### ～新美南吉生誕100年に寄せて～

「牛をつないだ樁の木」は、「ごん狐」が南吉童話の初期のころの代表作とすれば、これは後期の代表作といえる作品です。岩滑・岩滑新田あたりを作品の舞台に物語は進行します。“しんたのむね”の道ばたに水飲み場がなく難儀をする人たちのために人力引きの海蔵さんは、一念発起して井戸を掘る計画を立てます。人に頼ってはいは駄目だと知り、自分の力でこつこつ努力して、ついに井戸を完成させます。そして、「わしはもう、思い残すことはないがや。こんな小さい仕事だが、人のためになることを残すことができたからのオ」と言い残して、日露戦争に出征していきます。

これは、死を前にして書き残した南吉の心境であったはずで